

事務事業評価（事前評価）実施結果（平成 22 年度新規要望事業）

1 事前評価の目的

翌年度（平成 22 年度）を初年度として新たに予算要求する事業について、「妥当性」「効率性」「有効性」「貢献度」を踏まえた多角的かつ総合的な視点で事前に検証し、その優先度の調整等を図ることを目的とした。

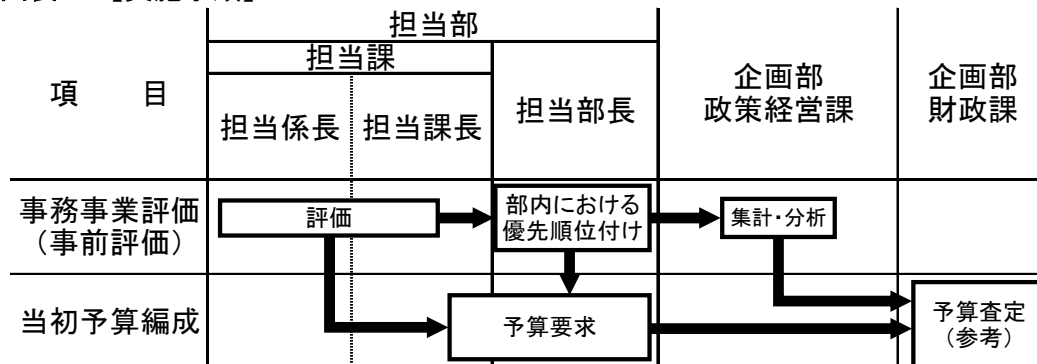
2 実施内容等

事前評価の実施時期・内容と実施手順は図表 1 及び 2 のとおり。まず担当課において、予算要求を行う前に、対象とする事業ごとに「妥当性」「効率性」「有効性」「貢献度」の視点(図表 3 参照)に基づき事前評価を行った上で、各視点からの評価を踏まえ、担当部長が部内における優先順位付けを実施。その後、それらを取りまとめた上で、その結果を評価表と併せて企画部財政課に送付し、平成 22 年度当初予算編成の参考資料として活用した。

図表 1：【実施時期・内容】（平成 21 年度）

実施時期	実施内容
10月20日(火) } 11月12日(木)	各担当部において評価表を作成・提出
10月28日(水) } 11月19日(木)	各担当部において評価内容を踏まえて予算要求
11月12日(木) }	企画部政策経営課で各評価結果を集計・分析の上、財政課に送付し、平成 22 年度当初予算編成の参考資料として活用

図表 2：【実施手順】



図表 3：【評価の視点】

視 点	
妥当性	市が担うことの妥当性が高いか
効率性	最少の資源投入量で最大の効果が出るか
有効性	事業の成果が出るか
貢献度	上位にある施策の実現（又は目的達成）に貢献するか

3 評価事業数

平成 21 年度における事前評価実施事業数は、103 事業であった(図表 4 参照)。

図表 4 :【年度別事前評価事業数】

年度	事前評価事業数
平成 15 年度	69 事業
平成 16 年度	62 事業
平成 17 年度	64 事業
平成 18 年度	100 事業
平成 19 年度	81 事業
平成 20 年度	93 事業
平成 21 年度	103 事業

4 評価結果の予算への反映状況等

事前評価を踏まえた各部ごとの優先順位付け等を経て予算編成を行ったところ、図表 5 のとおり、部内における優先順位が 1 位の事業の予算措置率は 76.9%、2 位の事業は 54.5%、3 位の事業は 58.3%となったのに対し、4 位以下の事業の予算措置率は 40.3%であり、部内における優先順位の高さにおおむね相応した予算措置がなされている。

一方、この結果を昨年度の予算措置率と比較すると、いずれの優先順位の区分においても今回の予算措置率は減少している。このことは、本市における事業展開上、全般的に新規事業の予算化が一段と厳しい財政状況にあることを表しているが、そのような中で、各評価を通じた事業の選択と集中に本年度も努めたことを示すものと考えられる。

今後とも限られた予算の中で市民ニーズに適切に対応していくためには、これらの事前評価とともに事後評価や外部評価を引き続き積極的に活用し、既存事業の見直し等と併せた事業の優先順位の精査を更に推進していく必要がある。

図表 5 :【事業の優先順位と予算編成結果】

優先順位	対象事業数…(1)	予算措置事業数…(2)	予算措置率…(2)/(1)×100
1 位	13 事業 (14 事業)	10 事業 (12 事業)	76.9% (85.7%)
2 位	11 事業 (12 事業)	6 事業 (11 事業)	54.5% (91.7%)
3 位	12 事業 (11 事業)	7 事業 (7 事業)	58.3% (63.6%)
4 位以下	67 事業 (56 事業)	27 事業 (31 事業)	40.3% (55.4%)
計	103 事業 (93 事業)	50 事業 (61 事業)	48.5% (65.6%)

※ ()内は、昨年度の実施結果